

一括公表

【平成19年度上期】

区分		18年度 4-9月	18年度 10-3月	19年度 4-9月	備考 (平成19年度上期における主な事例)
インシデント	レベル0	件 363	件 355	件 618	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症患者が無断で病棟を離れたが、外来ロビーで発見した。 ・入院患者に与薬する際、薬の不足を投与前に気がついた。(調剤ミス) ・保護室の内側の窓が施錠されていなかった。 ・注射指示箋に他の患者の名前を印字したが、注射前に気がついた。 ・点滴に混注する薬液を間違えたが、投与前監査の際に気がついた。 ・配膳ミスにより禁止食物を配膳したが、摂食前に気がついた。 ・造影剤の血管用と脊髄用を間違えたが、使用前確認で気がついた。 ・透析除水量の計算違いをダブルチェックで気がついた。
	レベル1	1,307	1,159	1,374	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の患者がトイレに行く際に転倒した。(外傷なし) ・入浴時に患者が尿カテーテルを自己抜去した。 ・痛み止めを皮下注射指示のところ、誤って筋肉注射した。 ・朝の血糖検査指示を忘失した。(未実施) ・中止指示のあった薬を誤って1回与薬した。 ・患者が食事中にリングをのどに詰まらせた。(ハイムリッヒ法で除去) ・認知症の患者がクッションのスポンジを口に入れていた。 ・検査の指示項目を間違えて実施した。 ・一日1回の薬(座薬)を2回投与した。 ・採血の指示を見落とした。(未実施) ・点滴の接続部がはずれていたのを患者家族が気がついた。 ・トイレの床にタバコの灰が落ちていたのを発見した。(館内全面禁煙)
	小計	1,670	1,514	1,992	
アクシデント	レベル2	194	115	140	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすから立ち上がった際に転倒した。(眼瞼2cm腫脹) ・輸液ポンプコードにつまづき転倒した。(左耳裂傷) ・トイレへ移動中転倒した。(下顎部裂傷) ・トイレ介助時に転倒した。(左眉部裂傷創縫合) ・隔離室に強制誘導の際、仙骨部に表皮剥離が生じた。(引きずったため) ・麻痺のある上肢がベッドサイドレールと壁に挟まっていた。(上肢変色) ・造影CT検査にて操作ミス、造影剤を倍量投与した。(点滴治療) ・輸液ポンプの設定を間違えた。(経過観察したが異常なし) ・透析患者の機器の時間設定を間違えた。(経過観察したが異常なし) ・服薬自己管理の患者が一日分を一度に内服(経過観察したが異常なし)
	レベル3 ※過誤無し	9	8	10	<ul style="list-style-type: none"> ・患者が車いすを自ら押しながら歩行中に転倒。(左大腿頸部骨折) ・見守り歩行患者からのナースコールで訪室すると転倒していた。(大腿骨頸部裂傷骨折) ・トイレに行くよう声かけをした際、ベッドサイドで転倒。(左大腿骨転子部骨折) ・左腸骨部に痛みがあり、検査したところ骨折していた。 ・無断離院した患者を職員が呼び止めたところ、逃げようとして転倒。(大腿骨骨折)
	レベル3 ※過誤有り	0	1	1	・手術後、体内にガーゼを残置した
	レベル4a				
	レベル4b				
	レベル5	3	1	0	
小計	206	125	151		
合計	1,876	1,639	2,143		

概要公表

平成19年4月から平成19年9月に確認されたレベル3以上の医療事故のうち、医療過誤に該当する事例

No.	概要	原因	改善・対応策
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解離性大動脈瘤に対する緊急手術において、手術後、腹腔内にガーゼを残置した。 ・ 閉胸する際に、ガーゼの数の確認を行ったところ、術前の数と一致しなかったため、胸部X線撮影を行ったが、体内にガーゼは発見出来ず手術を終了した。 ・ 退院後、創部から浸出液があり、他院でCT検査を行った結果、異物の存在を指摘されたため、当院で再手術を行いガーゼを取り出した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流血が大量で腹部にまで及んでいたため、広範囲にガーゼを使用したこと。 ・ X線撮影を行った際、ガーゼは胸部にあると考えていたため、腹部までのX線撮影を実施しなかったこと。 ・ 当日予定していた手術（所要時間 8時～18時、10時間）を実施した後に、本件事故に係る緊急手術（所要時間 20:45～翌19:30、22時間）を続けて実施したことにより、医師の疲労度が極めて高かったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ X線造影糸折り込み数の多いガーゼの採用（調査・検討中）。 ・ より広範囲にX線撮影を行う。 ・ 医師の確保による医療体制の充実